

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年 10 月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、10 月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 魅力発信！えひめ農業NOW(10月)

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁
東予	地域	1	農業指導士が就農初期女性農業者にアドバイス	1
東予	地域	2	集落見回り活動で、複合柵設置により鳥獣害から農地を守る！	1
東予	地域	3	そらまめの安定生産を目指して栽培講習会を開催	2
東予	地域	4	集落営農ネットワーク法人「株式会社あぐりサポートいわね」が始動	2
東予	四中	5	サルによる被害軽減に向けて、複合柵設置研修会を開催	3
東予	四中	6	鳥獣害に強い集落づくり（集落ぐるみの鳥獣害防止対策）に向けて	3
東予	四中	7	宝メシグランプリ受賞「蒸し上げ雑炊」のレシピ動画で郷土料理を継承	4
東予	四中	8	茶産地の人材確保に係る活動を協議	4
東予	産地	9	加工用青ねぎ新品種の実証開始	5
東予	産地	10	省力いちご栽培を目指して天敵を共同導入	5
今治	地域	11	小麦「せときらら」高収量・安定生産を目指して栽培講習会を開催	6
今治	地域	12	小麦の地産地消活動を検討	6
今治	地域	13	「甘平」の裂果対策実証ほの調査結果について	7
今治	地域	14	今治農業女子、かんきつの土壌管理技術について学ぶ	8
今治	地域	15	今治地域の青年農業者が農作業マッチングアプリについて学ぶ	8
今治	地域	16	一次産業女子・さくらひめメンバーが就農応援	9
今治	地域	17	菊間地区の青年農業者が鳥獣害対策について学ぶ	9
今治	地域	18	地域ぐるみの鳥獣害対策を推進するため集落環境点検を実施	10
今治	地域	19	今治市生活研究協議会が管内視察・交流研修を開催	11
今治	しまなみ	20	ハウスレモン栽培講習会の開催	12
今治	しまなみ	21	鳥獣被害対策軽減に向けた、集落見回り活動を実施	12
今治	しまなみ	22	しまなみGTがファームツアーを受入	13
今治	産地	23	オリーブの挿し木講習を開催	14
今治	産地	24	地元中学生を対象にしたオリーブの収穫体験学習会を開催	14
中予	地域	25	人との協働を目指す新たな農業用追従ロボットをデモ走行	15
中予	地域	26	ドローン防除実証の中間報告	16
中予	地域	27	下難波・由良地区樹園地整備を検討！「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム会」	16
中予	地域	28	中予地域いちごセミナーを開催	17
中予	地域	29	県内初の天敵温存ハウスで土着天敵の増殖を開始	17
中予	地域	30	さといも「伊予美人」の生産技術安定に向けて	18
中予	地域	31	ユーカーリ水田転換ほ場における土壌調査および耕盤局所破碎の効果	18
中予	地域	32	中予ブロック青年農業者リーダー研修会の開催	19
中予	地域	33	中島の青年農業者有志が農業分野のSDGsを学ぶ	19
中予	地域	34	女性農業者3組織初の合同研修会を開催	20
中予	地域	35	動画を活用した農作業確認と福祉事業所の掘り起こし	20
中予	地域	36	法人化を目指す新規就農者が農福連携で労働補完	21
中予	伊予	37	新たな野菜栽培者を育成するため勉強会を開催	22
中予	伊予	38	認定女性農業者グループが会員内のほ場で研修会を開催！	22
中予	伊予	39	一次産業女子がリモートで就農相談！	23
中予	伊予	40	伊予地域の食文化を子どもたちに伝承！	23
中予	伊予	41	集落点検で鳥獣被害防止に向けて意識の向上！	24
中予	伊予	42	七折小梅せん定講習会で省力化技術を紹介	24
中予	伊予	43	砥部町青年農業者が新規会員の園地を再生	25
中予	久万	44	ピーマン収穫作業のマッチング（農福連携）を実施	26
中予	久万	45	久万高原の地域食材を地方局職員に紹介	26
中予	久万	46	第2回久万高原ブランドづくり推進会議の開催	27
中予	久万	47	白ネギ品種比較試験における有望品種の検討	27
中予	久万	48	トマト部会青年部が関係機関と意見交換 ～産地のより良い発展に向けて～	28
中予	久万	49	集落リーダー巡回による担い手への農地集積支援	28
中予	産地	50	首都圏での愛媛産パクチーの需要拡大に向けて	29
中予	産地	51	さくらひめ鉢物の市場出荷開始に合わせ、2回目の市場・消費者ニーズ調査を開始	29
中予	産地	52	土壌水分センサーによる「甘平」のかん水方法を検討	30

南予	地域	53	赤みの強いブラッドオレンジ生産に向けた摘果試験を実施	31
南予	地域	54	積算温度計により「ひめの凜」の収穫適期を確認	31
南予	地域	55	新規就農者の確実な定着に向けた活動を展開	32
南予	地域	56	みかん収穫期に簡易トイレで労働環境の改善	33
南予	地域	57	「柿原の柿フェア」を開催し歴史あるかき産地をPR	34
南予	鬼北	58	(株)松野町農林公社にて「さくらひめ」の定植がスタート!	35
南予	鬼北	59	ハウスきゅうりの1条振り分け摘芯栽培を推進	35
南予	愛南	60	青年農業者が甘夏の水腐れ症対策のプロジェクト活動に取り組む	36
南予	愛南	61	愛南地区青年農業者協議会が県内視察研修を実施	37
南予	愛南	62	ブロッコリー春どり栽培推進及び秋冬どり出荷講習会を開催	38
南予	愛南	63	JA研修ほ場を利用して樹高切り下げ講習会を開催	39
南予	愛南	64	ゆず及び「河内晩柑」の欧州向け輸出研修会を実施	39
南予	産地	65	令和3年度「第3回南予マルシェ」の開催	40
南予	産地	66	南予の逸品発掘! 魅力ある農産加工品を取材	41
南予	産地	67	南宇和高校生を対象に「河内晩柑グミ」づくりを指導	41
南予	産地	68	新規生産者を対象にアボカド定植の講習会を開催	42
八幡浜	地域	69	八西地区青年農業者連絡協議会がPR動画を作成!	43
八幡浜	地域	70	農事組合法人の経営力強化に向けた研修会を開催	43
八幡浜	地域	71	八幡浜市真穴地区において鳥獣害防止対策の見回り活動を実施	44
八幡浜	地域	72	シトラス講座でスマート農業技術を紹介	45
八幡浜	地域	73	有機農業の推進に向け実践農家交流研修会を開催	45
八幡浜	地域	74	温州みかんAI選果機の普及に向けてセミナーを開催	46
八幡浜	大洲	76	自家育苗による「さくらひめ」出荷始まる	47
八幡浜	大洲	77	抑制きゅうり安定生産に向け現地講習会を開催	47
八幡浜	大洲	78	防護柵設置状況や被害発生ポイントをマップで確認、見回り強化へ	48
八幡浜	西予	80	寒地系にんにくの技術確立を目指し、主産地の情報をオンラインで研修	49
八幡浜	西予	81	県内で初確認! ネギハモグリバエ(別系統)の発生状況調査を実施	49
八幡浜	西予	82	高品質ゆずの出荷販売に向け、今後の栽培管理を徹底	50
八幡浜	西予	83	トマトオーナー制度の収穫体験 今年も完熟トマトが採れました	50
八幡浜	産地	85	温州みかん・甘平の台湾輸出計画を協議	51
八幡浜	産地	86	現地デモで青ねぎ用収穫機の実用性を確認	51
八幡浜	産地	87	南予の逸品を紹介! 八幡浜特産の「富士柿」をPR	52
農産園芸	高度普及	88	いちごの育苗期間中の環境条件の違いが生育等に与える影響について調査	53
農産園芸	高度普及	89	新規品目しょうがの産地化に向け、収穫前の調査を実施	54
農産園芸	高度普及	90	大洲のしょうが、産地化に向けて物流と商流を協議	55
農産園芸	高度普及	91	「紅プリンセス」水田転換栽培園の排水対策の効果を確認	56
農産園芸	高度普及	92	「ひめの凜金賞プロジェクト」ほ場において高品質・良食味を確認	57
農産園芸	高度普及	93	若手普及職員が制作した県産さといも、柑橘類のPR動画を試写	58
農産園芸	企画調整	94	新任普及職員におけるOJT研修の活動状況調査を実施	59

## 東予地方局 地域農業育成室

### ■農業指導士が就農初期女性農業者にアドバイス

- 東予東部農業指導士会は、地域農業育成室による支援のもと、10月7日に女性の農業経営参画と組織リーダー等を育成することを目的に、女性経営参画支援講座を開催。農業指導士8人が女性農業者5人にアドバイスを行った。
- 同会長が、農業指導士と認定農業者協議会理事で構成する農家アドバイザー制度を説明後、当室から昨年度のアドバイザーの指導実績及び制度の利用方法を説明した。
- 女性農業者の悩みや課題に対して、農業指導士が自身の経営の変遷や成功のポイント等を踏まえて助言した。
- 次回からは、「流通・販売」、「雇用」、「経理」といったテーマを決め、それを得意とする農業指導士が女性農業者に指導を行う予定。



女性農業者にアドバイスをする農業指導士



熱心に耳を傾ける就農初期女性農業者

### ■集落見回り活動で、複合柵設置により鳥獣害から農地を守る！

- 地域農業育成室は10月20日、新居浜市別子山大野地区において鳥獣害対策集落見回り活動を実施し、農家や関係者11人が参加した。
- 見回り活動では、えひめ地域鳥獣管理専門員（当室職員、新居浜市職員）が中心となり、鳥獣による被害状況や防護柵設置状況を確認し、今後の改善対策の技術指導等を行った。
- 今回の点検活動から、野菜作付け予定地ではサルとシカへの被害対策を強化するためワイヤーメッシュに電気柵を組み合わせた複合柵を設置することとし、今後、技術指導と合わせて設置後の管理・運営についても継続して指導を行う。



鳥獣管理専門員から対策のポイントを説明



防護柵の設置状況を点検

### ■そらまめの安定生産を目指して栽培講習会を開催

- 地域農業育成室は10月4日、JAえひめ未来新居浜経済センターでそらまめ栽培講習会を開催し、新居浜市内の栽培者5人が出席した。
- 講習会では、当室担当職員が、播種・育苗時、定植から誘引に至る注意点、病虫害防除のポイントについて説明した。
- また、今年度から新たに栽培を開始する農家と先輩農家との情報交換を企画することで、そらまめの安定生産に向けて新規栽培者の技術向上を図った。
- 当室では、今後もそらまめを始めとする新居浜市の都市近郊型農業の発展に向けて指導を行う。



そらまめ栽培のポイントを説明

### ■集落営農ネットワーク法人「株式会社あぐりサポートいわね」が始動

- 地域農業育成室が令和元年度から支援してきた西条市小松町石根地区の2つの集落営農法人が、次世代へスムーズに経営を継承し、大規模経営によるスケールメリットを活かすため、県内初の集落営農組織のネットワーク法人「(株)あぐりサポートいわね」(代表:曾我敏数氏、取締役6名、構成員48名)を10月8日に設立した。
- 同法人は、令和3年度には経営面積63ha、売り上げ1億2千万円を計画しており、5年後は100ha2億円、10年後は150ha3億円を目指すとともに、今年度新たに担い手を2名確保しており、5年後は5名、10年後は8名を確保し、経営継承を図ることとしている。
- 当室は、今回設立したネットワーク法人をモデルとして、集落営農組織間の連携を小学校区単位で推進し、地域内への波及を目指す。

## 東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

### ■サルによる被害軽減に向けて、複合柵設置研修会を開催

- 四国中央農業指導班は10月13日、四国中央市土居町上野地区において、近年増加するサルによる農作物被害を防止するため、えひめ地域鳥獣管理専門員の青木藍氏(元地域おこし協力隊員)を講師に、複合柵設置研修会を開催した。
- 同地区では、サルの防除に有効な複合柵(ワイヤーメッシュ柵+電気柵)が未導入であることから、当班が効果検証のため実証展示ほの設置と併せて研修会を企画した。
- 研修会には、同地区の鳥獣害対策グループと近隣の農業者ら合わせて9人が参加。参加者は実際に複合柵を設置し、設置時の注意点や運営管理方法等について、理解を深めた。
- また、捕獲対策を効果的に実施するため、市から利用可能な補助事業、当班からサルの生態等に関する情報提供を行った。
- 当班は今後、実効果を継続して検証するとともに、サル対策において有効な複合柵の普及を推進していく。



講師の説明を熱心に聞く参加者たち



実際に複合柵を設置して技術を習得

### ■鳥獣害に強い集落づくり(集落ぐるみの鳥獣害防止対策)に向けて

- 四国中央農業指導班は10月20日、四国中央市土居町上野地区において、「えひめ地域鳥獣管理専門員総合育成事業」の実践講座と併せ、鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施した。
- 当日は、農業者や関係機関職員等10人が参加し、(株)野生鳥獣対策連携センター阿部豪氏の指導を受けながら、集落内の環境点検を行った。
- 点検活動では、当班の担当者が集落環境の把握(被害状況やサルの移動・侵入経路の確認)や、捕獲対策の確認(箱わな等の設置状況)を行い、今後の対策や技術面について助言した。
- また、大型捕獲檻導入時を想定して設置場所を検討し、その際に留意すべき点や課題(餌の準備や捕獲後対応の役割分担等)の整理を行った。
- 当班は、同地区が取り組む集落ぐるみの鳥獣害防止対策に向け、地域の体制づくり等を支援していく。



農業者と関係機関で大型檻の設置場所を確認



地図を見ながらポイントを解説する阿部氏

## ■宝メシグランプリ受賞「蒸し上げ雑炊」のレシピ動画で郷土料理を継承

- 四国中央農業指導班は10月6日、「えひめ食農教育推進事業」におけるえひめ食文化保存継承活動の一環として、四国中央市の郷土料理の継承活動を実施した。
- 当日は、四国中央生活研究協議会会員13人の協力のもと、「列島縦断宝メシグランプリ2021」でグランプリを受賞した「蒸し上げ雑炊」など、3種類の郷土料理のレシピ動画を撮影した。
- 今回撮影した動画は後日、愛媛県農山漁村生活研究協議会 YouTube チャンネルにアップされる予定。
- また、同日、食育活動研修会も開催し、西条市禎瑞で食育活動に取り組む白石澄子氏を講師に招き、食育技術の向上を図った。
- 当班では今後も、グループや地域の垣根を超えた会員の活動等について、支援や情報発信を行う。



「蒸し上げ雑炊」を調理する協議会員



出来上がった「蒸し上げ雑炊」

## ■茶産地の人材確保に係る活動を協議

- うま茶振興協議会（事務局：四国中央市農業振興課）は10月22日、第2回の生産部会を開催し、人材確保について協議した。
- 四国中央農業指導班は、茶産業への関心を高めることを目的に、農繁期の補助作業者をボランティアで募集することを提案。協議の結果、6人のボランティアを確保することを目標とし、令和4年3月頃から市広報誌で周知、募集することとなった。
- 摘採や整枝の機器を取り扱う技術継承や茶産業の担い手育成に係る人材確保は、全国の事例や各種事業を参照しながら協議を継続していくこととした。
- また、生産部会では、10月より生産状況の実態把握を進め、優良茶園の確保に係る調査と地図化に取り組み、令和4年度には高品質の茶葉栽培に向けたモデル実証ほの設置を計画した。
- 今後、当班は同市農業振興課とともに、人材確保と優良茶園での生産振興にかかる活動を支援し、担い手育成の研修機会の創設と受け皿体制の整備を進める。



第2回生産部会 担い手確保で議論が交わされる



優良茶園の調査を実施し、地図化

## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■加工用青ねぎ新品種の実証開始

- 産地戦略推進室は10月13日、JAえひめ未来青ねぎ部会での新品種「春京香」の実証を開始した。
- 当品種は抽苔が遅いとされていることから、来春の収量が多くなることが期待される。
- 当日は、部会長のハウスにおいて、新品種の播種を行い、部会長は、「実際に栽培してみないと品種の特性がわからないため、定植後の生育をよく見てみたい」と期待を寄せていた。
- 当品種はハウスで育苗された後、11月に定植を行う予定。



セルトレイへの播種作業

### ■省力いちご栽培を目指して天敵を共同導入

- 産地戦略推進室及び四国中央農業指導班は10月29日、JAうまいちご部会員4人を対象に、いちごのハダニ類を捕食するミヤコカブリダニを製剤化した「ミヤコバンカー」の共同設置作業を指導した。
- これは、当室・班が講習会や個別巡回を通して、同部会に対し天敵導入を働きかけたところ、部会員4人が共同導入することとなったもの。
- 設置後は、天敵と害虫の定期的なモニタリングを行いながら、省力栽培を後押ししていく。



天敵製剤の準備作業

## 東予地方局今治支局 地域農業育成室

### ■小麦「せときらら」高収量・安定生産を目指して栽培講習会を開催

- 地域農業育成室は10月21日、JAと連携して、令和4年産小麦「せときらら」の新規栽培希望者13人を対象とした栽培講習会を開催した。
- 当地域では、過去4年間、はだか麦の豊作が続き供給過剰となったことから、需要のある小麦「せときらら」への転換を推進した結果、令和4年産小麦の栽培予定面積は45ha（昨年産対比204%）と、大幅な拡大が図られた。
- 当室は、適期の播種や実肥の重要性など収量や品質向上に向けた具体的な栽培管理を指導した。
- 当室は今後も、小麦の高収量、安定生産を目指し、個別巡回等を通じ新規栽培者の栽培技術向上を図る。



栽培講習会

### ■小麦の地産地消活動を検討

- 地域農業育成室は、10月18日に「今治産小麦地産地消活動推進検討会」を開催し、今後の取組について協議した。
- 今年度は、今治産小麦の実需者（パン製造業者）や一般消費者（さいさいきて屋等の購入者）を対象に11月～12月にアンケート調査を実施し、認知度や価格、購入意欲等の情報収集を行う。また、1月～2月に生産農家とパン製造業者との意見交換会を行うとともに、有名シェフを招いた今治産小麦を活用した新商品検討会を開催することとした。
- なお、10月21日に開催した小麦栽培講習会においては、今治産小麦を使用したパンの試食を行い、小麦生産農家に地産地消や需要拡大の取組について紹介した。



小麦の生産状況について説明



今治産小麦を使用したパン

※今治産小麦は、学校給食用パンの92%（令和2年度実績（小麦粉ベース））に利用されるなど地産地消活動の主力作物に育ったが、近年、学校給食用の必要量を上回り、在庫量の増加が問題になり、令和2年度より地産地消活動を強化してきた。

## ■「甘平」の裂果対策実証ほの調査結果について

- 地域農業育成室は「甘平」の裂果対策実証ほを設け、調査を実施しており、10月20日時点での裂果率は、基盤整備ほ場で49.6%、水田ほ場で38.4%であり、土壌水分の高い水田ほ場の方が、裂果が少なかった。
- また、JAおちいまばりや菊間青年農業者グループと共同で①摘果程度②カルシウム剤散布③植物ホルモン剤散布の3試験で裂果率を比較した。
- 各試験の裂果率は、①葉果比80区で55.6%、葉果比60区で47.9%、葉果比40区で64.6%、無摘果区で64.2%②カルシウム剤散布区（カルワックス：8月31日散布）では29.9%③植物ホルモン剤散布区（ターム：8月31日散布）では52.1%となった。今回の試験では葉果比の調査結果がばらつく等、一定の傾向が見られなかったため、次年度も継続して試験を行うこととした。
- 当室では今後、実証ほに設置している土壌水分センサーのデータを分析し、適切な水管理を指導し「甘平」の安定生産に取り組む。



裂果調査



土壌水分センサー調査

### ■今治農業女子、かんきつの土壤管理技術について学ぶ

- 地域農業育成室は10月15日、今治農業女子6人を対象にかんきつの栽培技術と経営について学ぶ第4回経営支援講座を開催した。
- 今回の講座では、当室職員の指導のもと、メンバーのかんきつ園地で細根の状況を観察し、あらためて適正な肥料の散布方法について確認した。
- また、メンバーが持ち寄った園地の土壌の色や形状の違い等を見比べ、簡易土壌分析キットやpH・ECメーターを用いて土壌分析を行った。
- その結果、ほとんどの土壌は適正であったが、同一園地内で肥料が散布されていない部分や耕作放棄地だった園地では値が低く、施肥設計の必要性が認識できた。
- 当室は、引き続きメンバーの園地を巡回し実地研修を行うとともに、生産目標の達成のため、個々の具体的な改善が実施できるよう支援する。



樹の細根の状態を実際に確認



土壌の分析方法を学ぶ



簡易土壌分析

### ■今治地域の青年農業者が農作業マッチングアプリについて学ぶ

- 地域農業育成室は10月22日、株式会社KIRIの高橋大希氏を講師に招き、青年農業者等14人を対象に、農作業の労働力確保を目的に開発された農業アルバイトマッチングアプリ「AIagri (アイアグリ)」についての研修会を開催した。
- 講師からは、マッチングの仕組みや県内の活用事例のほか、マッチングしやすい情報発信の方法等について説明があり、参加者からは「来てもらいたい人材がいれば指名できるのか」「利用している農家はリピーターなのか」等、具体的な利用について質問が出された。
- 当室では、今回の研修会と同様に青年農業者等の要望を聞きながら、農業技術の向上等を目的に講座を開催していく。



農業アルバイトマッチングアプリ「AIagri (アイアグリ)」について学ぶ

### ■一次産業女子・さくらひめメンバーが就農応援

- 地域農業育成室は10月12日、県農政課農地・担い手対策室と連携し、一次産業女子・さくらひめメンバーによるオンライン就農相談会を開催した。
- 今回は県外大都市在住の御夫婦から相談があり、移住就農した花澤氏（今治市）夫婦のほか県関係者3人が聞き手となって対応した。
- 相談者からは、移住までのスケジュールや住居探しに関する質問のほか、移住先での地域住民とのコミュニケーションの取り方や安定的な農業所得を得るための方法などについても相談があり、花澤氏が丁寧にアドバイスした。
- なお、相談者御夫婦は、令和2年度にオンライン開催した就農相談会に参加するとともに、オンライン農業体験ツアーにも参加しており、移住先として今治市島しょ部を希望している。
- 今後、当室では、同メンバーや関係機関と連携し、就農相談者がスムーズに移住・就農できるよう支援していく。



就農相談会の様子（オンライン）

### ■菊間地区の青年農業者が鳥獣害対策について学ぶ

- 地域農業育成室は10月20日、令和3年度えひめ地域鳥獣管理専門員講座の受講生であるJAおちいまばりの営農指導員と協力し、菊間地区の青年農業者等8人を対象に鳥獣害対策講習会を開催した。
- 室内講座では、営農指導員が、菊間地区の被害状況や青年農業者がスイカ園に設置した電気柵の防護効果について報告した。その後、同専門員の指導者である株式会社野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏から「野生鳥獣の防護対策の基本」について説明を受けた。
- 屋外講座では、ワイヤーメッシュ柵や電気柵の設置について実習するとともに、当地域で既に設置している防護柵が経年変化で補修が必要であることから、管理方法や補修方法についても学んだ。
- 当室は、引き続き同専門員と連携して実践活動を支援するとともに、若い青年農業者が鳥獣害対策技術を学ぶ場づくりを推進する。



柵設置のポイントについて説明



ワイヤーメッシュの結束方法を実習



参加者で電気柵の設置実習

## ■地域ぐるみの鳥獣害対策を推進するため集落環境点検を実施

- 地域農業育成室は10月28日、今治市朝倉高大寺集落において地域ぐるみの鳥獣害対策について検討するため、集落リーダー、猟友会、関係機関担当者等12人が参加し、集落環境点検を実施した。
- 点検活動では、参加者は、数年前から被害が顕著になっているニホンザルの出没場所や餌場のほか、防護柵の管理状況について集落を歩いて点検するとともに、その結果を集落内で情報共有するため、目撃場所や目撃頭数を記入した地図を作成した。
- その後、参加者は、当室の鳥獣害対策担当者から、出没しているサルの群は約70頭であることやGPS首輪を活用した行動調査の結果報告、餌場を無くす重要性、複合柵の設置ポイント、他地域の捕獲事例等の説明を受け、加害獣の捕獲協力や役割分担について検討した。
- また、ドローンを飛行させ、参加者から要望のあった耕作放棄地周辺の環境点検を上空から試みた。
- 当室では、これらの活動を通じ地域ぐるみでの鳥獣害対策が進むよう支援する。



防護柵、餌場について点検



ドローンを活用して上空から点検



参加者で地図を作成

## ■今治市生活研究協議会が管内視察・交流研修を開催

- 今治市生活研究協議会は地域農業育成室と連携し、10月26日、会員間の交流を目的に、管内視察・交流研修を開催し、会員や関係機関9人が参加した。
- 研修は、コロナ禍における活動をテーマに参加人数を制限し、野外での活動とし、今治市玉川町の「森のともだち農園」でマコモタケ収穫、ブルーベリー染め、ピザづくりを体験した。
- 森のともだち農園の森氏からは、これまでブルーベリー収穫体験等を実施していたが、感染防止のため飲食を伴う体験が実施できなくなったこと、バス等での団体客が減り、少人数での来園者が増えたことなどから、飲食を伴わず来園者に楽しんでもらうブルーベリー染め体験を実施することになったこと等の説明があった。
- 参加者からは、「当協議会では学校と連携し食農教育を実施していたが、コロナ禍のため料理実習等の開催が難しい状況が続いている。今後は、今回の体験のように野外での開催や家族を対象にした内容を考えていきたい」等の意見が出た。
- 当室は、コロナ禍に対応した改善策も提案しながら、同協議会の食農教育活動を支援する。



マコモタケ収穫体験



ブルーベリー染め体験



■ハウスレモン栽培講習会の開催

- しまなみ農業指導班は9月30日、ハウスレモンの安定生産と夏季レモン栽培技術の普及を目的に、上島町岩城地区のハウスレモン栽培農家19人を対象に栽培講習会を開催した。
- 講習会では、当班から夏季レモン栽培体系の栽培実証結果やハウス栽培管理の改善点、難防除病害虫の防除方法について説明後、岩城駐在のレモンハウスで、夏季レモンの栽培状況を視察した。
- 参加者からは、たわわに実るレモンを前にして夏季レモン栽培への興味と意欲が感じられた。
- 当班では、引き続き、地方局予算事業による夏季レモン栽培技術体系の確立普及に向けて、実証ほを活用した指導活動に取り組む。



夏季レモン栽培実証ほでの栽培概要の説明

■鳥獣被害対策軽減に向けた、集落見回り活動を実施

- しまなみ農業指導班は10月20日と26日、今治市伯方町伊方地区と上浦町瀬戸出走地区で、鳥獣害防止に係る集落見回り活動を実施した。
- 当日は、今治市、JAおちいまばり、地元猟友会や生産者等延べ22人が参加し、イノシシの出没状況や侵入防止柵の設置状況等を見回り、今後の集落ぐるみでの取組に向け、参加者で共通認識を醸成した。
- 被害防止対策（ワイヤーメッシュ柵や電柵）の設置状況やイノシシの侵入経路を確認し、普及指導員や地元猟友会から、改善策等について指導。合わせて普及指導員から県下で取り組んでいる新技術等について情報提供した。
- 参加者からは「効果的な侵入防止柵の設置の仕方がよく分かった」「集落ぐるみで取り組む必要性が認識できた」との意見があった。
- 当班では、今後も、両地区で集落全体での取組に向け、体制整備や効果的な捕獲方法等について支援する。



普及指導員による情報提供



地元猟友会による捕獲アドバイス

## ■しまなみG Tがファムツアーを受入

- しまなみ農業指導班は、10月11日、14日及び15日の3日間、県観光物産協会等が推進するファムツアーの農家受入を支援した。
- 体験に招へいされたツアー専門家3人から「いずれも地域の特産品を利用した体験でよかった」また、レモネードづくりでは「カットしたレモンを事前に凍らせておいて氷のかわりに入れてはどうか？」などの意見をいただき、今後の体験に活かすよう受入農家を指導した。
- なお、今回の専門家向けファムツアーは、県観光物産協会等がしまなみ地域を中心としたサイクリングと地域資源コンテンツを組み合わせた旅行の商品化を進めている事業の一環として行ったもの。
- 地域資源のコンテンツとして、レモン狩り（レモネードづくり含む）、塩生キャラメルづくり及びレモン懐石づくりの3体験を県観光物産協会等が選定しており、今後も「旅行会社向け」及び「在日外国人向け」のモニターツアーが予定されている。



レモン懐石づくり

## 東予地方局今治支局 産地戦略推進室

### ■オリーブの挿し木講習を開催

- 産地戦略推進室は10月7日、今治市吉海町の「NPO 法人アクションアイランド」の生産者4人を対象に、オリーブの挿し木講習を行った。
- 当室担当者が挿し木の方法や留意点を説明した後、準備したオリーブの枝から先端部分の新芽を切り出し、約1,000本の挿し穂を調整。配合した培養土を充填したトレー1箱に100本ずつ挿し、たっぷり水やりした後、半日陰に置いて管理することとした。
- 本講習は、オリーブ特産化推進連絡会（しまなみ産オリーブ特産化促進事業）の活動の一環であり、オリーブで吉海町の活性化を目指す「NPO 法人アクションアイランド」は今回の挿し木から育てた苗を島内に配布することや、島民を対象にした挿し木講習会の開催を計画している。



オリーブの挿し木方法の説明

### ■地元中学生を対象にしたオリーブの収穫体験学習会を開催

- 産地戦略推進室は、10月28日に「しまなみ産オリーブ特産化促進事業」の一環で、今治市吉海町の生産団体「ポパイズクラブ」のオリーブ園において、今治市立大島中学校1年生36人を対象にしたオリーブ収穫体験学習会を開催した。
- 学習会では、当室担当者が愛媛県のオリーブ栽培の現状を説明した後、生産者の指導の下でオリーブの収穫作業体験やオリーブオイルの搾油を見学するとともに、オイルと果実の塩漬けの試食を行った。地元にもオリーブの園地があることを初めて知った生徒も多く、慣れない手つきで約30分間収穫し、全員で20kg程の果実を摘み取った。
- 来年3月には、コロナ禍で延期となっている「苗木の植え替え体験学習会」を計画しており、吉海町が県内一のオリーブ産地であることをアピールするとともに、生徒にオリーブ栽培に興味を持ってもらい、将来の担い手確保につなげることを目指している。



オリーブ栽培状況の説明



収穫を楽しむ生徒達

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■人との協働を目指す新たな農業用追従ロボットをデモ走行

- 地域農業育成室は10月20日、松山市庄のJAえひめ中央新規就農研修センター北条柑橘研修ほ場で、農業用追従ロボット「メカロン」のデモ走行会を開催し、研修生16人や関係機関ら合計35人が参加した。
- これは、かんきつ栽培の省力化やスマート農業に関連する新技術の一つとして「メカロン」を開発した農研機構に当室が働きかけて実現したもの。参加者は「メカロン」を追従させて走行性を確認したほか、傾斜かんきつ園での使用を想定した質問、要望など開発者と意見を交わした。
- 農研機構によると「これまでになしやりんご等の生産現場で導入検証した事例はあるが、かんきつ園地でのデモ走行は今回が初。先月から販売を開始しており、今回の走行経験や意見を参考に、今後、傾斜地かんきつ園での活用に向けた改良を検討したい」とのこと。
- 当室では引き続き、関係機関と連携して省力化技術の導入を推進し、「柑橘王国えひめ」を支える中晩柑の生産量維持を目指す。



農研機構開発担当者が、「様々な農作業を、年間を通して、農業者に協調してアシストする」コンセプトを説明。



肥料5袋を載せ、参加者(スタートボタンを押した人)に追従走行。小回りもよく、凸凹を越えて樹の周りをUターンした。

## ■ドローン防除実証の中間報告

- 地域農業育成室は10月27日、松山市堀江のJAえひめ中央新規就農研修センター堀江柑橘研修ほ場で実施したドローンによる黒点病防除について、関係機関に中間報告した。
- 防除は、伊予柑の超省力化技術の確立・普及を目指して令和元年度から取り組んでいる局予算「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」のドローン防除現地実証として6月から8月にかけて実施したもの。
- ドローン飛行方法を片道と往復の2通り（各5a、傾斜かんきつ園）で比較したところ、往復すると散布時間は片道の約1.2倍かかるが、葉裏への薬液付着率は約2倍に向上することから、薬液付着ムラの改善対策の一つとして期待できる。また、雨が続いて適期防除が難しい場合でも少しの晴れ間に防除できるドローンに期待する関係機関の意見も聞かれた。
- 果実への黒点病発生状況は収穫時に調査し、これらを踏まえて防除効果を検証する予定。



検討会では、ドローン防除の対面散布省力効果への関心が高かった。

## ■下難波・由良地区樹園地整備を検討！「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム会」

- 地域農業育成室は10月27日、樹園地整備の計画を推進するため、県、市、JAの関係者で構成するワーキングチーム会を開催した（24人が出席）。
- 下難波地区については、整備工事から苗木定植までの具体的なスケジュールと施設化の事業支援の方向性を確認した。また、当チーム会において当室が中心となって「整備樹園地の土づくり指針」を作成する等土壌改良を啓発してきたところ、同地区耕作予定者が整備工事の過程で堆肥投入を行う共通認識を持つに至ったことを確認した。
- 由良地区（興居島）については、整備工事に関連して生じる様々な課題について対応策の方向性を検討した。伐木工で発生する木質チップの島内での活用については、今後、地区の生産者等と話し合いを進める中で対応策を具体化していくこととした。
- 当室は、営農施設整備や栽培技術等についてチーム員等による分科会を招集し、生産現場のニーズに対応した支援策の実現を進める。



ワーキングチーム会

## ■中予地域いちごセミナーを開催

- 地域農業育成室は10月20日、いちご産地の生産振興を図るため、東温市でいちごセミナーを開催。生産者等38人が参加し、ハウス内環境測定装置や炭酸ガス日中施用による増収効果等の事例を紹介した。
- 室内研修後、当室が設置している高収益モデル実証ほへ移動し、ハウス内環境測定装置や細霧冷房の状況を確認した。
- セミナーでは、炭酸ガスの施用方法等多数の質疑が行われ、生産者の関心の高さがうかがえた。
- 今後は、天敵の導入手順支援や炭酸ガス日中施用方法等について現地指導を行い、生産者の所得向上を目指す。



室内研修



高収益モデル園での現地研修

## ■県内初の天敵温存ハウスで土着天敵の増殖を開始

- 地域農業育成室は、県内初となる天敵温存専用ハウスを松山市内に設置（100㎡）し、10月6日から土着天敵（タバコカスミカメ）の増殖を開始した。
- なす栽培において、アザミウマ類防除は、薬剤抵抗性の発達や有効な薬剤が少ないことなど対策に苦慮していることから、当室では天敵による防除を推進している。
- 増殖した土着天敵（タバコカスミカメ）は、来春、管内の半促成なすを栽培する生産者のハウスに放飼する予定。
- 天敵の利用により薬剤抵抗性の回避や農薬の使用削減が見込まれ、当室では天敵利用技術の普及を進めることとしている。



パイプハウスの建設



土着天敵の放飼

### ■さといも「伊予美人」の生産技術安定に向けて

- 地域農業育成室は10月12日、農林水産研究所、JAえひめ中央と連携し、管内の生産者ほ場で、さといもの収量調査を実施した。
- 前回調査（9/21）に比べ、約30%収量が増加しており、生育後半でも地下部の肥大が進むことが確認できた。
- JAえひめ中央東部営農支援センター管内では、昨年からはさといも「伊予美人」の産地化に取り組んでおり、今年は昨年比5.5倍の約3.5haで栽培が行われ、急速に産地化が進んでいる。
- 当室では、8月に実施した地上部の調査結果と今回実施した地下部の調査結果を合わせ、地域に適した栽培方法を検討し、産地拡大を図る。



掘り取りした芋の分割作業

### ■ユーカリ水田転換ほ場における土壌調査および耕盤局所破碎の効果

- 地域農業育成室は10月26日、松山市堀江のユーカリ水田転換ほ場で、土壌調査と携帯型穴掘り機を用いた耕盤局所破碎による排水性の確認を行った。これは、水田転換ほ場で滞留水による酸欠での株枯れが多発するため、土壌断面の把握と耕盤に穴を開けた場合の排水性の把握を目的としている。
- 耕盤は地表から10～25cmの深さで形成されており、25cm以降は中砂が主成分の透水性のある砂壤土であり、ほ場の排水性改善が確認された。
- 当室は、今後携帯型穴掘り機を用いた耕盤局所破碎と明渠等を組み合わせ、水田転換ほ場での排水性改善方法を普及し、株枯れ症問題の解決に努めていく。



ほ場通路に携帯型穴掘り機で穴を開け排水性改善

## ■中予ブロック青年農業者リーダー研修会の開催

- 地域農業育成室は10月22日、松山地区青年農業者連絡協議会等と連携し、令和3年度中予ブロック青年農業者リーダー研修会を農業大学校で開催し、青年農業者12人と関係機関が出席した。
- 本研修会は、中予ブロック青年農業者リーダーが一堂に会し、研修を通じて知識の向上と交流を深め、地域を担うリーダーとしての資質向上を図るもの。
- 当日は、農業大学校職員より、ドローンを取り巻く現状、航空法、操縦方法等について説明を受けた後、操縦を体験した。会員からは「機体がとても軽くて驚いた。操縦は思ったよりも簡単だった」という感想が得られた。研修会後も各協議会の代表が各地区の活動状況を共有し合い、今後の協議会活動の視野拡大の一助となった。
- 当室では、事務局として今後も中予地域の青年農業者の交流機会を通して各協議会活動の活性化を図るとともに個々の経営発展を支援する。



青年農業者がドローンの操縦を体験



操縦方法について説明を受ける青年農業者

## ■中島の青年農業者有志が農業分野のSDGsを学ぶ

- 地域農業育成室は9月30日、中島青年農業者協議会の有志4人を対象に農業分野のSDGsの初期費用ゼロ円型太陽光発電（PPA）について研修会を実施した。今回は、松山市SDGs推進協議会の会員（株）デンカシンキの担当者を講師にPPAの営農モデルについて学んだ。
- PPAとは、太陽光発電システムを同社が無料で設置して、太陽光で発電した電力を今までと同水準または安い価格で、使用した電力に応じて農家が支払い、太陽光発電システムの設置費用を賄う方式。
- 青年農業者会員は、現在四国電力の農事用電力を利用して、夏場のかん水を行っているが、PPAの利用でコスト削減できるかについて興味があり、今後の検討課題となった。
- 当室は、農業分野におけるSDGsの取組の可能性を探るとともに、連携して情報収集を行っていく。



（株）デンカシンキの担当者からPPAについて学ぶ青年農業者

## ■女性農業者3組織初の合同研修会を開催

- 地域農業育成室は10月13日、興居島、中島、東温の各農業女子会や道後、北条の未組織地区の新規就農女性等18人を対象に、今後の経営について見聞を広めるため、初めての合同研修会を東温市で開催した。
- 研修は、果樹と花木、野菜と花木の各複合経営に取り組む2農家のほ場を視察し、経営内容やほ場管理、月別の作業や労働力等について学んだ。参加者は、土づくり資材のほか、花木栽培についてはせん定や傾斜ほ場での作業性を質問するなど、自身の経営品目以外からも経営のヒントを得ようと熱心に聞き入っていた。
- 参加者からは、「実践農家からの話は説得力があって刺激になった」、「いろいろな人の話を聞けるのはモチベーションアップになる」、「他の人のほ場を見る機会があまりないので参考になった」などの意見があった。
- 当室では、組織化の支援や既存組織の自主的活動支援を通じ、組織間交流や栽培技術向上を図り、女性農業経営者の育成を進めていく。



複合経営農家(右端)から、主品目を優先した労働配分計画を学ぶ

## ■動画を活用した農作業確認と福祉事業所の掘り起こし

- 地域農業育成室では、農福連携ビジネス推進事業の一環として、今年度は写真だけでなく、農家の委託したい作業を細分化した様子や、障がい者就労施設の普段の作業風景や農園の様子を動画で撮影し、両者のマッチングの際に利用している。
- 複雑な作業でも細分化すれば、技能を持つ人がカバーすることで作業が苦手な利用者も一緒に働くことができることから、施設からは「作業の様子がよく分かり、利用者に作業が可能かイメージしやすかった」、生産者からは「利用者の普段の様子や集中して作業している様子がよく分かった」との感想があった。
- 当室では、農家や福祉施設からの要望や意見を踏まえ、今後の研修会メニューやマッチング等に反映させながら農福連携を推進する。



動画を使った作業の確認



福祉事業所の掘り起こし



細分化した作業風景

## ■法人化を目指す新規就農者が農福連携で労働補完

- 地域農業育成室は10月28日、農福連携ビジネス推進事業を活用し、法人化を目指す管内の新規就農者と福祉事業所で、かんきつ類のせん定枝の回収・積み込み作業及び出荷用段ボールの組み立て作業で農作業体験マッチング（スタッフ計4人、利用者計7人参加）を行い契約に至った。
- 新規就農者からは、「作業してもらっている間に、自分が技術的な仕事に集中出来ることがありがたい」、施設スタッフからは「開放的な空間で作業でき、利用者の心身機能の改善に繋がる」「新規就農者が成長していく過程に関われることも楽しみ」との感想があった。
- 今後は、同施設での安定した労働力が確保できるよう、温州みかん・伊予柑の収穫作業、選果機で選果された果実の運搬・箱詰め、幼木の全摘果・株元の草管理、電気柵に絡んだ草とり、キウイフルーツ園の石拾いなど年間を通した作業計画を作成し、スムーズな連携が実施されるよう支援する。



夏秋梢処理した枝の回収と  
積み込み作業



出荷用段ボールの組み立て  
作業



景色のいい山頂で昼食

## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■新たな野菜栽培者を育成するため勉強会を開催

- 伊予市農業振興センター新規就農者担当者会は10月17日、野菜栽培を始めたい人を対象とした野菜づくり勉強会を開催した。
- この勉強会は、伊予市管内の野菜生産者や出荷量が減少するなか、新たな生産者の掘り起こしや新規就農・定着への支援を目的に開催したもので、当日は9人の一般申込者に対し、管内振興品目である夏秋キュウリや伊予ナス、レタス、エダマメの栽培ポイントや、JAえひめ中央野菜研修ほ場での研修制度等の新規就農支援について説明した。
- 研修後には新規就農に向けた個別相談に対応し、兼業で農業を始めるため農地を探したい等の相談に対し、条件等を聞き取りながら、スムーズな就農に向けて支援していくこととした。
- 当担当者会では、新たな栽培者の確保育成に向けて今後も定期的を開催していく。



野菜振興品目等の説明



野菜研修ほ場での研修

#### ※伊予市農業振興センター新規就農者担当者会

伊予市農業振興課・伊予市農業委員会・えひめ中央農協南部営農支援センター・愛媛農業共済組合伊予支所・伊予農業指導班で構成

### ■認定女性農業者グループが会員内のほ場で研修会を開催！

- 伊予農業指導班は10月7日、女性認定農業者グループ「あいネットワーク」14人を対象に、会員内ほ場巡回研修を開催した。
- 当日は、砥部町広田の会員2人のほ場で研修を行い、中山間部の冷涼な気温を活かしたキャベツやほうれん草、夏秋トマト栽培等について学んだほか、会員自らの経営や栽培での役割分担、後継者の妻とどのように関わっているかなどを説明した。
- 参加した会員からは、「パクチーとほうれん草の出荷調製はどうしているのか」や「鳥獣害対策はどうしているか」などの質問が上がり、有意義な情報交換が行われた。



女性農業者の役割などを研修

### ■一次産業女子がリモートで就農相談！

- 伊予農業指導班は10月9日、地域政策課主催のえひめオンライン移住フェアに参加した伊予市の一次産業女子さくらひめメンバーの就農相談をサポートした。
- 相談者からは、「体力面が不安」、「忙しい時期はどうしているのか」など、様々な質問が出た。
- 当日対応したさくらひめメンバーは一人で農業に従事しており、同じく一人で就農を目指している相談者へ前向きなアドバイスを伝えた。
- 相談者は11月に就農準備のため来県予定で、その際、さくらひめメンバーとの交流が行えるよう引き続き支援していく。



オンラインで就農相談

### ■伊予地域の食文化を子どもたちに伝承！

- 伊予農業指導班は10月26日、伊予市生活研究協議会（酒井幸江会長）と連携し、伊予市北山崎小学校で食農教育推進事業に係る「食文化普及講座」を開催した。
- 当日は、同校の5年生25人を対象に協議会員9人が講師となって、地域の産物を使った「鯛めし」、「芋たき」、「サツマイモのオレンジジュース煮」の3品を調理し、校長先生や市の栄養教諭も招いて一緒に試食を行った。
- 参加した児童から、「鯛のさばき方を一緒にやって、面白かった」「いつもご飯を全部食べられなくて残すけど、美味しかったので全部食べられた」など感想が聞かれ、会員は、「この講座は、もっと広がってほしい」と意欲を見せていた。



調理に挑戦する児童



鯛めし用の鯛をさばく会員

### ■集落点検で鳥獣被害防止に向けて意識の向上！

- 伊予農業指導班では10月21日、伊予市唐川地区で、鳥獣害被害防止対策の集落見回り活動を実施した。
- 当日は、同地区の猟友会員や農業者9人が、チェックリストを手に、目撃情報の多い山際の獣道の確認や電気柵、ワイヤーメッシュ柵の点検を行い、中予地方局地域農業育成室の普及指導員が柵の管理について指導を行った。
- また、その日参加した猟友会員が仕掛けた箱罠に大型のイノシシがかかっており、止さしの様子も見学した。
- 参加者からは、「柵の管理の仕方がわかって良かった」「捕獲は大変な労力が必要だ。猟友会の方には感謝する」と言いった声が聞かれ、今回の点検で集落ぐるみの対策実施に向けて意識が向上した。



ワイヤーメッシュの点検



捕獲されたイノシシ

### ■七折小梅せん定講習会で省力化技術を紹介

- 伊予農業指導班は10月22日、砥部町七折地区で七折小梅のせん定講習会を開催。今年度豊作で樹の勢いが弱っているものや、勢いの強い樹など状態を見極めながら、枝の整理を行うように説明するとともに実技講習を実施した。
- また、近年、栽培者の高齢化や担い手不足でせん定作業が遅れるなど、問題となっていたことから、今回省力化技術として、電動チェーンソーや大型のハサミを用いたせん定方法を実演し紹介した。
- 農家からは、「機械は重くないのか」、「作業時間はどの程度使えるのか」などの質問や、「実際に持ってみて思ったよりもよく切れる」等、使い勝手の状況を確認していた。
- そのほか、今年度砥部町で実施される改植事業に合わせ、苗木の定植方法や作業性の良い整枝方法についても講習を行った。



電動チェーンソーなど省力化技術を紹介

## ■砥部町青年農業者が新規会員の園地を再生

- 伊予農業指導班は10月28日、砥部町青年農業者協議会による新規就農者の定着に向けた取組を支援した。
- この取組は、新たに就農した会員の早期経営安定を図るために青年農業者組織の仲間が協力して遊休農地の再整備を支援するとともに、再整備を機に油圧ショベル、チェーンソー、刈払機の操作技術の向上を目指すもの。
- 当日は、建設会社の職員が講師となり油圧ショベルのレバー操作や抜根作業の方法を学び、参加会員が順番に操作しながら抜根等作業を行った。また、先輩会員から、チェーンソーと刈払機の使い方、刃の交換方法、混合油の作り方等伝授し、遊休農地を整備した。
- 新規就農者からは、「1日で園地が整備でき、来春の改植に向けて準備ができるので助かった」との声が聞かれ、当協議会では、引き続き会員相互の連携を深め新規就農者の活動を支援する。



新規就農者が油圧ショベル操作技術修得



会員が協力して伐採作業を行う

## 中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■ピーマン収穫作業のマッチング（農福連携）を実施

- 久万高原農業指導班は10月14日、班内のピーマンほ場において、久万高原町内の障がい者施設1事業所を対象に、ピーマン収穫作業のマッチングを行った。
- 当マッチングは、ピーマン収穫作業における労働力補完対策や農福連携による障がい者の就労促進を目的として実施したもの。
- 参加者は、初めてのピーマン収穫作業で戸惑いもあったが、教えられた収穫方法に沿って作業し、収穫技術の習得を図った。
- 今後当班では、ピーマン収穫作業における労働力補完体制の確立や障がい者の就労促進に向け、障がい者施設との連携を推進していく。



収穫方法の講習



収穫作業の体験

### ■久万高原の地域食材を地方局職員に紹介

- 久万高原農業指導班は10月14日、中予地方局の職員を対象に地域食材試食会を行い、当日約40人が参加した。
- これは、中予地方局元気創造プロジェクトにおいて「農山漁村の食文化や暮らしの技の伝承」をテーマに若手職員が協議し、8月末の最終報告を経て来年度の局予算として予算化が検討されていることに伴い実施したもの。
- 久万高原町で昔から食べられている「地とうきび」や「たかきび」等の雑穀を使った郷土料理3品（なほこねり、たかきびの団子汁、雑穀餅）について、コロナ感染予防対策を充分に行っただうえで局長ら職員に試食を求めた。
- 「雑穀を食べたことがなかったが思ったより食べやすい」、「久万高原町の郷土料理を初めて食べたがとてもおいしい」などの声が聞かれた。
- 当班は、今後も雑穀等地域食材の生産振興や郷土料理の伝承活動を行っていく。



郷土料理を試食する職員ら



（右上から時計回りに）ヤーコンの漬物、たかきびの団子汁、はなこねり、雑穀餅

## ■第2回久万高原ブランドづくり推進会議の開催

- 久万高原農業指導班は10月19日、「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」の一環で、第2回久万高原ブランドづくり推進会議を開催し、町・JA等と本年度の事業の進捗状況と今後の予定について協議。
- 同会議では、漬物向け野菜の栽培状況や、今後の実証予定、栽培・加工マニュアルの作成、漬物の食味成分分析等を協議した。
- アドバイザーの松山東雲短期大学大塚名誉教授からは、「漬物の歯ごたえ感等素材の食感の重要性やピーマンの漬物加工事例等」の助言があった。



推進会議の様子

## ■白ネギ品種比較試験における有望品種の検討

- 久万高原農業指導班は10月21日、「JA松山市2021年度④久万高原白葱部会出荷会議」（部会員6人）において、班内ほ場で実施している品種比較試験の説明を行った。
- 部会の栽培品種は「夏扇パワー」であるが、久万高原町の栽培環境により適した品種を選定するため「夏扇タフナー」「龍美」「太陽の祝い」を栽培している。
- 会では、当班技術普及グループ職員が持参した収穫期の白ネギを前に、各品種のもつ特性について説明し、出荷調製を実演しながら、葉鞘（軟白部分）の太さや硬さ、作業性について参加者に確認してもらった。
- 当班では、今後、収量・品質調査をとりまとめ、同部会の実績検討会において調査結果を報告し、有望品種の導入を推進する予定。



各品種の特性について説明

## ■トマト部会青年部が関係機関と意見交換 ～産地のより良い発展に向けて～

- 10月27日、久万高原農業指導班が活動を支援している④久万高原トマト部会青年部(会員34人、山田崇博会長)が主催し、関係機関らと意見交換会を行った。
- 当日は青年部役員3人と町や営農支援センター、JA松山市、農業指導士、当班ら9人が「久万高原トマト、次の50年に繋ぐために、就農先として選ばれるために何をすべきか」をテーマに意見交換を行った。
- 青年部から、久万農業公園でトマトの栽培研修を行っている研修生に対し、先輩農家の経営スタイルや信念を話してもらうことにより、就農する際の目標の明確化に繋がるのではとの提案があった。
- また、「定着率、就農満足度を上げる人材育成、環境づくり」についてディスカッションを行い、支援制度についてデメリットもきちんと説明し、就農希望者に納得してもらったうえで受入れる、収入確保・安定に産地一丸となって取り組むなど活発な意見が聞かれた。
- 当班は引き続き、青年部の活動と産地の活性化を目指して支援を行う。



意見を述べる山田会長(左)



参加者全員でのディスカッション

## ■集落リーダー巡回による担い手への農地集積支援

- 久万高原農業指導班では10月5日～22日にかけて実施した中山間地域等集落協定の現地確認に伴い、各集落協定並びに集落リーダー等に対して今後の地域(水田)農業の在り方について集落ぐるみで考えて行くことを呼び掛けた。
- 現地確認は美川地区を皮切りに柳谷、面河、直瀬、畑野川、明神、父二峰地区の38集落で実施。当班は、各リーダーに対して地域の担い手の明確化や担い手への農地集積の方法等を啓発し、担い手組織を育成した町内の先行集落の事例を紹介した。
- 当班では引き続き、担い手への農地集積体制づくりを目指した支援に取り組む。



集落リーダーと水田農業の在り方を検討

## 中予地方局 産地戦略推進室

### ■首都圏での愛媛産パクチーの需要拡大に向けて

○産地戦略推進室は10月19日、首都圏での愛媛産パクチーの認知度向上と需要拡大につなげるため、東京事務所の協力を得て、合計4kgのサンプルを、せとうち旬彩館2Fの「かおりひめ」と(有)愛媛サポーターズの紹介を受けた8軒の飲食店へ納入した。

○受け取った料理人からは、「収穫から1日しか経っていないので新鮮でみずみずしい」「香りも強く、どんな料理にしようか創作意欲が湧く」と好感触であった。

○今後は、それぞれの店舗でメニューとして使用できる食材か試作を行い、後日、東京事務所を通じて回答される。

○当室では、継続的に飲食店へのメニュー化の働きかけを行うとともに、今後、購入者への使用方法等のアンケート調査も検討しており、引き続き、認知度向上・販路拡大に取り組む。



パクチーを手にする料理人

### ■さくらひめ鉢物の市場出荷開始に合わせ、2回目の市場・消費者ニーズ調査を開始

○産地戦略推進室は、「さくらひめ鉢物産地づくり推進事業」の一環として、さくらひめ鉢物の市場・消費者ニーズの把握と情報発信に取り組んでいる。

○10月20日から、第2回目となる『「さくらひめ」きゅんです♡キャンペーン』（～令和4年1月31日）を県内外へのお荷開始に合わせてスタートし、既に、県内外の購入者から「淡い色合いが魅力的」「園芸店で見て一目惚れした」等の好意的な意見が多数寄せられている。

○また、10月26日に県外市場に3.5号鉢（直径10.5cm）で栽培したさくらひめを送付。11月下旬を目途に市場や花屋からの評価を確認する。

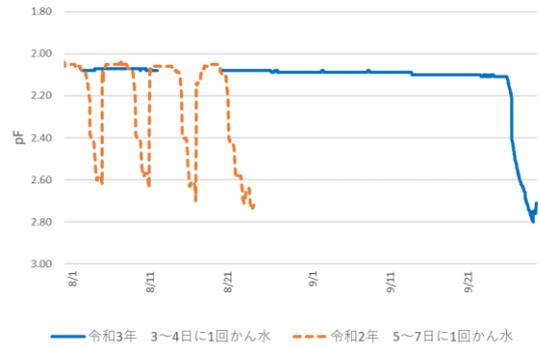
○当室では、これらの取組を通じて、さくらひめ鉢物の産地拡大につなげるとともに、第1回のキャンペーンで消費者からの要望が多かった「長く花を楽しむための管理方法」について『鉢物「さくらひめ」』HP内に掲載するなど、積極的な情報発信により認知度の向上及び販路拡大を図る。



市場へ送付したさくらひめ鉢物

## ■土壌水分センサーによる「甘平」のかん水方法を検討

- 産地戦略推進室は、「甘平」の裂果を引き起こす要因として土壌水分に着目して、4か所の現地ほ場に土壌水分センサーを設置し、7～9月のかん水方法を検討した。
- 昨年度の調査結果から、それぞれのは場条件による土壌水分の変化の傾向を分析し、かん水量・頻度を変えた結果、土壌水分をより高く保つことができ、裂果も比較的強く抑えられた。
- 裂果の発生は、土壌水分値以外の要因によっても左右されるが、土壌水分値の測定によるかん水方法の確立は、裂果対策に有効な手段のひとつとして期待できることから、今後は、農家段階でも利用可能な、より安価で簡便な土壌水分センサーを用いたかん水方法を検討する。
- 当室では、今回得られた土壌水分のデータと裂果との関係を、その他の要因も含めて総合的に考察し、その結果から中予地域の甘平の安定生産に向けた栽培技術の確立に取り組む。



かん水方法の違いによる土壌水分

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■赤みの強いブラッドオレンジ生産に向けた摘果試験を実施

- 地域農業育成室は、ブラッドオレンジの特徴である赤味の向上を目的として、後期2回摘果区(9月8日、10月4日)と後期1回摘果区(10月4日)の実証ほを設置し、一般的に指導されている慣行摘果方法(7月上旬と8月下旬の2回)との違いを調査している。
- ブラッドオレンジは、赤味が強く加工に適している「モロ」と大玉で生食向きの「タロッコ」の2品種が栽培されており、「タロッコ」では赤味の弱いことが問題となっている。
- 生産者からは、果皮と果肉が赤く、1樹当たりの階級(L玉)が揃った果実をつくる技術として、この摘果方法に期待を寄せており、当室では、効果を検証しながら品質向上対策の一手法として技術を確立していく。

### ■積算温度計により「ひめの凧」の収穫適期を確認

- 地域農業育成室は「ひめの凧」の適期収穫を指導するため、穂が出始めた8月から日々の平均気温を積算する積算温度計を宇和島市内6地区に設置し、データに基づく指導を進めてきたところ、10月20日の米検査において、調査園の中から最高品質に該当する「プレミアムクオリティ」に初めて格付けされた。
- 今年産は、出穂以降の気温が平年に比べ1～3℃高く推移したことから、積算温度1,050℃前後、出穂から40日前後の刈取りとなった。一方、調査園6地点は標高差で200mあったが、刈取り時期に大きな差はなかった。
- 積算温度計を設置した農家からは、「籾の色や葉色など目視や勘に頼っていたが、刈取り判断基準が可視化され心強い」「来年度以降も調査を継続してほしい」といった声が聞かれた。
- 当室では、収集した積算温度と日数・品質データを栽培者に情報提供し、良食味米「ひめの凧」の生産拡大を進めていく。



収穫適期の「ひめの凧」



設置ほ場より「プレミアムクオリティ」

※「ひめの凧」の収穫適期基準：積算温度 950℃～1,050℃、最も長い穂の籾の黄変率 85%～90%、出穂後日数 40～45 日

## ■新規就農者の確実な定着に向けた活動を展開

- 地域農業育成室は8月30日から9月6日にかけて、「農業次世代人材投資事業（経営開始型）」の受給者45人を対象に、関係機関（宇和島市農林課、農業委員会、JA）とともに面談・営農状況を確認し、各々の園地で現地指導を行った。
- この結果、青年等就農計画の達成に大幅な遅れが生じている農業者がいたことなどから、当室は協議を重ね、同事業の中間評価とは別に前年の農業所得をもとに独自の基準を設け、基準に満たない農業者のうち、特に指導が必要な者を重点指導対象者と位置づけ、普及指導員による濃密指導を展開することとした。
- 10月20日には、現地確認した普及指導員が基準に満たない19人の営農状況を共有したうえで、6人を重点指導対象者として選定し、対象者ごとにかんきつ類や野菜などの栽培技術や経営管理について、関係機関と連携し個別指導することとした。
- 当室は、こうした取組を展開しながら、管内の新規就農者の確実な定着を図り、地域農業の持続的な発展を目指す。



現地確認で営農状況を把握



重点指導対象者について協議

## ■みかん収穫期に簡易トイレで労働環境の改善

- 地域農業育成室が事務局を担う宇和島地区普及事業推進協議会は10月22日、みかん収穫期の労働環境改善を目的に、簡易水洗トイレを管内4カ所に実証設置した。この活動は、5年目を迎えるが、昨年の収穫ボランティアへのアンケートで、7割以上の方が「トイレ環境を改善して欲しい」と回答しており、産地で働くうえで依然として重要な課題となっている。
- この取組は、これまで吉田地区内で実証し、その利便性や快適性を体感してもらった結果、昨年度には農業者らが補助事業を活用し、吉田地区玉津に5基の常設トイレを設置することとなった。さらに、今年度は玉津に2基、宇和島地区白浜、大浦、坂下津に各1基を設置し、これまでの取組が地域に波及しているところ。
- そこで、この流れを更に加速させるため、これまで導入されていない津島地区繁近、吉田地区喜佐方、立間、宇和島地区石応でみかん収穫最盛期の2か月間利用してもらい、ボランティアや農業者の意見を聞くこととしている。
- 当室では、引き続き簡易トイレの設置などを通じて、労働環境の改善を進め、農繁期の労働力確保につなげていく。



農道脇に設置された簡易トイレ



水洗式で清潔なトイレ内部

## ■「柿原の柿フェア」を開催し歴史あるかき産地をPR

- 地域農業育成室はかきの生産振興や販売支援を通じた産地振興の一環で、10月24日に宇和島市の道の駅きさいや広場で開催された「柿原の柿フェア」をサポートした。
- このイベントは、市内の柿原農業組合が歴史ある産地のPRと生産者のレベルアップを目的に開催したもので、当日は、品評会に出品されたかき(品種名：前川次郎)の展示や表彰、即売のほか、高級菓子用に産地化を進めている伊達柿(品種名：市田柿)のパネル展示が行われ、新鮮なかきを買い求める消費者でにぎわった。
- また、前日の品評会では、出展のあった18点から、農林水産研究所の元職員や、JAえひめ南と当室の職員が大きさや形、着色に優れた3点を選考。今年は8月の長雨や9月下旬の高温等で栽培に苦労したが、出品果実は大きく、色づきもよく、いずれも甲乙つけがたい立派なかきであった。
- このイベントを通じて、市内外の消費者に柿原のかきの魅力がPRできただけでなく、生産者と関係機関が一体となり産地振興に取り組む機運も高まったことから、当室では、基本管理の徹底指導や伊達柿の早期成園化に加え、加工業者との連携等に取り組み、かきの生産振興と地域の活性化に努める。



出品された前川次郎の展示



受賞した生産者3人(手前)

※柿原地区：旧宇和島市北東部に位置する住宅街で、100年以上の歴史がある地元で有名なかき産地。平成25年以降、加工用かき(品種名：市田柿)の産地化にも取り組んでいる。

## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■(株)松野町農林公社にて「さくらひめ」の定植がスタート!

- 鬼北農業指導班は10月6日、(株)松野町農林公社で「さくらひめ」の定植作業を指導した。
- 同社では暖房施設を導入したガラスハウス3.4aで「さくらひめ」を栽培しており、今後、1週間ごと4回に分けて定植を行う予定である。
- この日は0.9aに約650株を定植し、定植作業と合わせてナメクジやコオロギからの被害を予防するために殺虫剤の処理について指導した。
- 当班では、今後、来年1月から始まる出荷に向けて、温度や電照管理、葉かぎ、芽かぎ、摘蕾など栽培期間を通じた指導を行い、さくらひめの安定生産を図る。



定植作業時のガラスハウス



定植後の苗

### ■ハウスきゅうりの1条振り分け摘芯栽培を推進

- 鬼北農業指導班は10月18日、19日、ハウスきゅうりの新たな整枝法の普及を図るため、ハウスの補強を兼ねた誘引設備による「1条振り分け摘芯栽培」について、内部構造の見学会と栽培講習会を生産者と関係機関の16名の参加により開催した。
- 鬼北地域(松野町、鬼北町)のハウスきゅうりは一部を除き、露地用アーチをハウス内に設置し、栽培する方法が主流であったが、日照不足による流れ果等の発生や、誘引ネットによる傷果の多発が問題となっていた。
- そこで、1条植えを左右に振り分けることで日照量確保や傷果減少が期待できる1条振り分け摘芯栽培と内部改修を実施した2ヶ所のハウス見学会を開催し、構造や改修コスト、試験結果等を説明した。
- 若い生産者からは、「日照量確保や傷果抑制の点からもこの誘引法に取り組んでみたい」と、意欲的な声が聞かれた。
- 引き続き、当班では、従来の露地アーチによる誘引法と1条振り分け摘芯誘引法との収量や品質について比較調査を進め、報告会を開催する予定である。



生産者への栽培講習会



1条振り分け摘芯栽培

## 南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■青年農業者が甘夏の水腐れ症対策のプロジェクト活動に取り組む

- 愛南農業指導班は愛南地区青年農業者協議会員3名30aの園地で、「青年農林漁業者ステップアップ活動支援事業」を活用したプロジェクト活動を行っており、昨年度から「甘夏の水腐れ症対策」に取り組んでいる。
- これは、一昨年、冬期の高温、降雨の影響で果皮がへこんで褐変し、その後、腐敗する水腐れ症が多発し、会員の園地でも被害が多かったことから、その解決策を探っているもの。
- 一般的には、ジベレリンの散布が有効とされるが、甘夏には農薬登録がないことからカルシウム剤で代用し、その効果を確認するため、10月5日から11月5日にかけて3回散布を行い、収穫後に水腐れ症の発生状況を調査し、データを取りまとめたうえで成果を報告する予定。
- 当班ではプロジェクト活動を通じて、将来の地域リーダーとなる青年農業者の育成と高品質かんきつの安定生産を図っていく。



散布を行う青年農業者協議会員



カルシウム剤を散布された甘夏

## ■愛南地区青年農業者連絡協議会が県内視察研修を実施

- 愛南農業指導班は10月14日から15日、愛南地区青年農業者連絡協議会の県内視察研修をサポートした。
- 今回は会員に関心の高い「甘平」などの安定生産技術や樹園地の基盤整備状況の調査を目的に果樹研究センターにおける「甘平」の栽培試験状況や砥部町の生産者のほ場に加え、松山市高浜・下難波両地区の基盤整備状況を会員8人が視察した。
- なかでも、大規模な基盤整備が行われている下難波地区では、スケールの大きな工事に「宅地造成を行っているのかと思った」と感嘆の言葉が漏れ、事業内容や整備状況について積極的に質問が投げかけられた。
- 愛南町へ帰る道中では、それぞれの視察先で見聞きしたことを自分たちの栽培にはどう活かされるか盛んに議論するなど大変有意義な視察研修となり、特に基盤整備への関心がより高まった。
- 当班では、将来に向けた基盤整備について関係機関と情報共有や話し合いの場を設けていく予定。



下難波地区で担当者と意見交換する会員



砥部町甘平生産者ほ場視察

## ■ブロッコリー春どり栽培推進及び秋冬どり出荷講習会を開催

- 愛南農業指導班は10月19日、JAえひめ南と連携しブロッコリーの春どり栽培の推進に向け講習会を開催し、24名が参加した。
- 春どり栽培は、冬季に温暖な愛南町に有利な作型で、収益性も高く作期拡大による労働分散等にも有効であることから、当班では普及ビジョンに位置付け、作付割合の50%を目指している。
- 当日は、当班で作成した推進用パンフレットを用い、導入の有利性や栽培ポイントについて説明。また、秋冬どり栽培の本格出荷に向けて出荷講習会も開催し、出荷基準に基づいた厳選出荷に取り組むことを確認した。当日は、令和3年度の初出荷日であったが、松山市場の初セリは昨年と同価格で取引され順調な滑り出しとなった。
- 当班では、今後もブロッコリー長期安定出荷に向け、ほ場巡回等により迅速かつきめ細やかな指導を実施する。

### 春ブロッコリーを栽培してみませんか

(JAえひめ南、愛南農業指導班)

愛南町のブロッコリー栽培は、昭和52年から始まり、現在、栽培面積約40ha(愛南町分)を誇る、県下一の産地です。

特に3～6月に収穫する「春どり栽培」は、愛南町の冬季の温暖な気候を利用する、愛南町に有利な作型です。また、全量氷詰め出荷することから、気温が高い春は、特に市場の評価が高いです。

作型	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
春どり					定植				収穫			

春どり栽培推進パンフレット(抜粋)



生産者に春どり栽培の有利性をPR



氷詰めで今季初出荷

### ■ J A 研修ほ場を利用して樹高切り下げ講習会を開催

- 愛南農業指導班は10月19日、南宇和地区営農指導連絡推進会議果樹部会の事業の一環として、同部会員や南宇和高校生ら30名（うち高校生9名）を対象に「河内晩柑」の樹高切り下げ講習会を開催した。
- 当日は、J A えひめ南の研修ほ場を利用して、当班の職員が夏秋梢の処理や切り下げる枝の見分け方等を説明した後、高校生らが樹高切り下げに取り組んだ。
- 樹高の高い樹が多かったほ場は、生徒達の手によって見事にせん定され、「どの枝をせん定すればよいか、ポイントが分かった」と手ごたえと達成感を感じていた。
- 当班は今後も同部会や同校と連携を図り、講習会を定期的で開催するなど栽培技術向上に向けて支援を行っていく。



講習を熱心に聞く南宇和高校生ら



樹高切り下げに取り組む

### ■ 「河内晩柑」の欧州向け輸出研修会を実施

- 愛南農業指導班は10月25日、ブランド戦略課と連携して南宇和地区営農指導連絡推進会議果樹部会18名を対象に「河内晩柑」の欧州向け輸出に係る研修会を開催した。
- 当日は、鬼北農業指導班で取り組んでいるゆずの欧州向け輸出園の栽培管理や出荷方法、みかん研究所では「河内晩柑」の欧州向け防除試験について研修を行った。
- 出席者からは、欧州におけるゆずの需要見込みや出荷方法について熱心に意見交換するとともに、欧州向け「河内晩柑」の防除試験の果実が、国内の正品レベルで出荷できる品質であることが確認できた。
- 当班は、今後、関係機関と連携しながら、愛南町の特産品である「河内晩柑」の海外への販路開拓を支援する。



鬼北農業指導班での室内研修



みかん研究所での「河内晩柑」防除試験

## 南予地方局 産地戦略推進室

### ■令和3年度「第3回南予マルシェ」の開催

○南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は10月15日、宇和島恵美須町商店街で「第3回南予マルシェ」を開催。今回は、「道の駅やすらぎの里」「道の駅清流の里ひじかわ」のほか、6次産業化に取り組む「企業組合津島あぐり工房」「菓子工房KAZU」が参加し、旬の野菜や果物、地元農産物を使った加工品などを販売した。

○今回のマルシェでは、手づくり弁当やスイーツなども多く販売され、特にSNS映えする「フルーツサンド」が人気を集めたほか、知名度は低いが特色ある南予の産品を紹介する「南予の逸品」コーナーの設置や、産直市のおすすめ商品カタログの配布等により南予の農産物をPRした。

○第4回は11月8日、八幡浜銀座商店街の八日市で開催する予定で、引続き感染防止対策を徹底した上で、イベントの充実・定着に取り組みながら、南予の農産物の販売促進・PRを通じて生産者の所得確保に努める。



お目当ての野菜を品定めする来場者



人気を集めたフルーツサンド



「南予の逸品」紹介コーナー

## ■南予の逸品発掘！ 魅力ある農産加工品を取材

- 産地戦略推進室は、「南予の農産物販売促進事業」を活用し、南予の特色ある農産物や加工品等を「南予の逸品」に選定してメディアやSNS等による情報発信を行い、販売拡大に繋げることをしており、これまでに「大野ヶ原の生にんにく」、「木成り河内晩柑」、「冷蔵シャインマスカット」等を紹介している。
- 今回、道の駅みまが販売する「みま米しょうゆ糍ドレッシング」、鬼北町のきじのエキスをを使ったまるやかな「鬼北きじ醤油」、松野産のうめを使った万能調味料「プラムスコ」を紹介するため、10月13日及び25日に(株)エス・ピー・シーとともに事業者を訪問し、開発の経緯や商品の特徴、おすすめの食べ方などの取材をサポート。当室から産地の状況や商品のアピールポイントなどをアドバイスした。
- 「南予の逸品」については、「タウン情報まつやま」のWebサイトやインスタグラム、スマホアプリ「えひめのあぷり」に「南予みらい逸品堂」として掲載されるとともに、南予地方局農業振興課のFacebook「南予の農林水産物PRサポートチーム」等を通じ、広く消費者にPRすることとしている。



みま米しょうゆ糍ドレッシング  
道の駅みま



鬼北きじ醤油  
(株)フェザンフィレール(きじ生産者)



プラムスコ  
菓子工房KAZU(うめ生産者)

## ■南宇和高校生を対象に「河内晩柑グミ」づくりを指導

- 産地戦略推進室は10月22日、愛南町の特産品「河内晩柑」の魅力を広め産地振興につなげるため、南宇和高校の生徒を対象に加工品の開発指導を行った。
- 同校では今年度、「愛南未来づくりプロジェクト」における「総合的な探求の時間」として生徒自身による地域の課題研究に取り組んでおり、この中で特産品の活用について研究している生徒グループにアドバイスを行い、「河内晩柑」を使ったグミの試作に至ったもの。
- 当日は、県食品産業技術センターが作成したレシピをもとに、グミづくりの手順を指導。生徒からは「ゼリーは作ったことはあるがグミは初めて」「思ったよりおいしく作れた。今後は味や触感なども工夫してみたい」等の感想があった。
- 今後、南宇和高校では再度試作を行った上で、商品化を目指すとしており、当室では引き続き「河内晩柑」を使った魅力的な商品づくりをサポートする。



南宇和高校生徒による「河内晩柑グミ」の試作



型に入れて成型

## ■新規生産者を対象にアボカド定植の講習会を開催

- 産地戦略推進室は10月22日、NPO法人ハートinハートなんぐん市場（代表：吉田良香理事長）と連携し、愛南町平山地区の園地で新規生産者2名を対象にアボカド定植の講習会を開催した。
- 愛南町では、NPO法人、町、県が連携してアボカドの産地化に取り組んでおり、産地の拡大を図るため新規生産者の確保・育成を進める中で、去年は3名の生産者が試験栽培をスタート。今年は、これまでに実施した研修会を通じて興味を持った生産者2名が新たに試験栽培に取り組むとともに、既存生産者1名が面積を拡大した（新規面積分計4a）。
- 講習会では、アボカドの開花特性に基づいた品種選定や定植時の留意点に加え、水管理や防寒対策等について説明し、実際に生産者に植付けを体験してもらいながら基本技術の習得を図った。
- 当室では、引き続きNPO法人及び愛南町と連携し、定植後の生育状況の確認や冬季管理等について巡回指導を行い、アボカドの安定生産を推進する。



新規生産者を対象とした定植講習会



植付時の留意点を指導

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■八西地区青年農業者連絡協議会がPR動画を作成！

- 地域農業育成室は、八西地区青年農業者連絡協議会が制作する八西地区PR動画のプロデュースを行っている。
- 本動画は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地方回帰志向が高まっていることから、移住就農者を獲得することを目的に八西地区の魅力を発信するもので、八西地区の概要や特産品であるかんきつの紹介のほか、西宇和みかん支援隊で実施している就農サポート等についても紹介するもの。
- 10月4日に青年農業者8人が出演し、八西地区の綺麗な景色とともに農作業の合間にできるレジャー等をPRするため、サイクリングや夕日をバックに釣りをしている様子を撮影。11月には、青年農業者が温州みかんを収穫する様子と、女性移住就農者、青年農業者等から、県外の移住就農希望者に対するメッセージを収録する。
- 完成した動画は、首都圏等の就農相談会のほか、各種イベント等で放映する。



青年農業者が綺麗な景色をバックに八西地区の魅力を発信

### ■農事組合法人の経営力強化に向けた研修会を開催

- 地域農業育成室は10月7日、管内で新たに設立した農事組合法人（笑柑園ナカウラ、楽蔵）の経営力強化を目的に、経営計画の策定と税務管理をテーマとした専門家による研修会を開催し、同法人のリーダーら10人が出席。なお、本研修会は、「西宇和地域柑橘集落営農支援事業」（局予算）の一環で実施したもの。
- 経営計画の策定では、組織の強み・弱み・機会・脅威を考え、目的を達成するための経営課題との因果関係を確認しながら、現実的に達成可能な内容を実行することが大切であること、税務管理では、個人から法人になったことで変わることや消費税について学んだ。
- 当室では、引き続き専門家らによる労務管理や税務管理等に関する講座を開催し、経営技術の習得と法人の自立を促す。



専門家による研修

## ■八幡浜市真穴地区において鳥獣害防止対策の見回り活動を実施

- 地域農業育成室は鳥獣害防止対策強調月間の活動として10月8日、八幡浜市真穴地区において、地元農業者、青年農業者、市及びJA担当者11人と、鳥獣害防止対策の見回りを実施した。
- 当日は、箱罠の設置及び捕獲状況を確認し、その周辺の有害獣による痕跡を調査するとともに、当室から防護柵の設置方法・ポイントを説明し、突破された箇所については、農業者に修復を指導した。
- また、同地区で実証展示している遠隔監視捕獲システム<sup>\*</sup>を利用した大型捕獲檻を紹介。イノシシを検知した映像から、捕獲時における同檻周辺のイノシシの生態についても情報を共有した。

※遠隔監視捕獲システム：センサーにより檻の入口付近でイノシシを検知するとメール通知と録画が行われる。スマートフォン・PC等でライブ映像を確認し、遠隔操作で入口を落とすことができる。



箱罠の設置状況を確認



実証展示している大型捕獲檻について紹介

## ■シトラス講座でスマート農業技術を紹介

- 地域農業育成室は、早期の技術習得を図るため新規就農者等を対象としたシトラス講座を開催し、メディア等を通じて内容を発信しており、今回は10月中旬から下旬にかけて、西宇和地域で普及を図っているスマート農業技術を紹介。AI選果機（第4回）とアシストスーツ（第5回）をCATVやYouTubeで配信した。
- 当室からAI選果機については、(株)NPシステム開発が取り扱う選果機の概要と実際の選果状況を、また、アシストスーツについては、昨年度までの実証で評価の高かった製品を紹介し、選果作業やみかんの入ったコンテナの運搬作業を体験して、その感想を伝えた。
- シトラス講座は、県公式YouTubeだけでなく、八幡浜市が開設している移住定住ポータルサイトでも掲載することとなり、移住就農者の確保に繋がることも期待される。
- 次回の放送は、2月中旬に「せん定(間伐・若木の骨格づくり)」を予定している。



AI選果機の紹介



アシストスーツを着用した感想を伝える

## ■有機農業の推進に向け実践農家交流研修会を開催

- 地域農業育成室は10月22日、有機農業実践者及び関係機関職員23人を対象に「有機農業実践農家交流研修会」を開催し、今後の有機農業推進に関する情報を共有した。
- 研修会では、西予市宇和地区で野菜を中心とした有機農業に取り組む農業者と、今治支局しまなみ農業指導班の職員から、有機農産物の販売と栽培のポイントやかんきつ類の有機栽培実証試験についての講演があった。
- また、当室からは、本年5月に国が策定した「みどりの食料システム戦略」に基づく有機農業の推進方策や数値目標について情報提供した。
- 参加者からは、「収量は有機栽培と慣行栽培で差はあるのか」「有機栽培による作物の食感の違いを数値化できれば売上増につながるのでは」等、多数の質問や意見が出された。
- 現在、支局管内では、かんきつ、野菜など137haで有機栽培が行われており、当室では、引き続き研修会や技術実証を通じた取組面積の拡大に努める。



有機農業実践者による講演

## ■温州みかんA I 選果機の普及に向けてセミナーを開催

- 地域農業育成室が参画する西宇和スマート農業推進協議会は10月22日、かんきつ産地でのスマート農業技術の普及に向け、「温州みかんA I 選果機実証セミナー」を開催し、生産者や関係機関・団体の職員等60人が参加。
- セミナーでは、令和元年度から2年間取り組んだ「スマート農業加速化実証プロジェクト」の実証で、家庭用選果機と比較して選果時間が大幅に削減され、選果精度が向上したことを報告するとともに、温州みかんの選果を実演した。
- 選果機を稼働すると、生産者は選別の精度等を確認し、「A I 選果であれば、個人差がある人による選別より高い精度が期待できる」「今後、補助事業等を活用し導入を検討していきたい」との声が聞かれた。
- その他のスマート農業技術として、気象ロボットが収集したほ場環境データを活用した遠隔自動かん水システムや、園地でのコンテナ運搬作業の負担軽減効果が期待される簡易アシストスーツを紹介。生産者は実際に触れて体感することで、スマート農業技術に対する認識を深めた。
- 当室は、今後も技術の検証を継続するとともに、補助事業等の活用によるスマート機器の導入支援や情報発信等に努め、未来型かんきつ生産への転換を目指す。



A I 選果機の実演



遠隔操作が可能な自動かん水システム

## 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

### ■自家育苗による「さくらひめ」出荷始まる

- 大洲農業指導班が内子町小田深山（標高 900 m）地区で、農家と共に取り組んでいる自家育苗による「さくらひめ」の出荷が始まった。
- 10月14日には、180本（60～70cmサイズ）を大阪市場へ初出荷。高冷地の利点は自家育苗ができることに加え、早期定植・早期出荷が可能であり、この時期の「さくらひめ」は、県内リレー出荷の先陣を切る位置づけとなっている。
- 今年の生育は順調で、従来の冷房を用いた苗とも差がなく、種苗費のコスト低減が見込めることから次年度も自家育苗に取り組む予定。
- 当班は、引き続き生育状況確認や栽培管理指導を行うとともに、自家苗の増産による地域内農家への苗供給についても検討を進めることとしている。



収穫前のさくらひめ

### ■抑制きゅうり安定生産に向け現地講習会を開催

- 大洲農業指導班は10月18日と19日、抑制きゅうり現地講習会をJAきゅうり部会3支部で開催し、生産者15人が参加した。コロナ禍で見合わせていた集合研修は3ヵ月ぶり、この期間中は個別巡回を強化し、対応していた。
- 講習会では、JAや種苗メーカーから販売状況、栽培管理について説明があり、当班は本作型において重要ポイントとなる病虫害対策について指導を行った。
- 今年の病虫害定期調査の結果では、タバココナジラミの発生による退緑黄化病の発生が多かった半面、ハウス内のアザミウマ類が少なく、昨年まで問題となった黄化えそ病は抑えられており、防虫ネットの効果と見られることから、出入り口や換気口への追加設置や色褪せたネットの張替えなどの対策を指導した。
- 今後、気温の低下とともに病害の発生に注意する必要があるとあり、当班はJAと連携し、定期的な巡回指導による樹勢維持や病害対策を呼び掛け、収量確保を目指していく。



生育を参加者で確認

## ■防護柵設置状況や被害発生ポイントをマップで確認、見回り強化へ

- 大洲農業指導班は10月26日、今年度の鳥獣害防止対策の重点地区である大洲市森山荒平地区で、JA愛媛たいきと連携し集落見回り活動を実施。同地区の農家をはじめ、大洲喜多猟友会、大洲市、地域おこし協力隊の計10人が参加した。
- 地区内を歩いて回りながら、防護柵（ワイヤーメッシュ）設置の進捗状況や、捕獲わなの設置箇所などを確認。集落地図上にポイントとなる箇所を記入し参加者で情報を共有、自主的な見回り意識を高めた。
- 地図作成後には、センサーカメラの映像で周辺にイノシシが確実に存在することを示したうえで、固定の甘い箇所の改善や、収穫後の防護柵管理の重要性を呼び掛け、継続的かつ、集落全員で鳥獣害対策に取り組む意識の向上を図った。
- 当班では今後も継続的な活動支援を行い、効果的な鳥獣害対策に取り組んでいく。



作成した地図で情報共有



継続的な対策を呼び掛け

## 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

### ■寒地系にんにくの技術確立を目指し、主産地の情報をオンラインで研修

- 西予農業指導班は10月7日、大野ヶ原で産地化を支援している寒地系にんにくについて、オンラインによる栽培研修会を開催し、栽培者8人が参加。
- 青森県の原種供給会社を講師に、リモートで品種特性や栽培技術のポイント、病害虫対策等について研修し、質疑応答により栽培に関する知識を深めた。
- 現在、にんにくの植付け時期を迎えており、栽培者は「これまで不安に思っていたことが明確になった」「技術のポイントに注意しながら栽培したい」と高品質生産に向けて意欲をみせていた。
- 研修後には、マルチの種類や元肥の違いによる品質や収量への影響を調査するため、生産者とともに、現地実証ほを設置。当地域での最適な栽培技術を明らかにしていく。
- 当班では今後、土づくりや施肥設計、除草対策等、安定生産のためのマニュアルづくりと生産者組織の運営強化を図り産地化を支援していく。



オンラインでの研修を受講する生産者



生産者とともに実証ほを設置

### ■県内で初確認！ネギハモグリバエ（別系統）の発生状況調査を実施

- 西予農業指導班は10月14日、ネギハモグリバエ（別系統）の発生状況調査を、産地戦略推進室、病害虫防除所、JAひがしうわ、(株)百姓百品と実施した。
- ネギハモグリバエ別系統（以下「B系統」という。）は、2019年に京都府のネギで初めて発生が確認された系統で、愛媛県では発生が確認されてなかった。従来のネギハモグリバエによる被害様相とは異なるネギ葉全体が白化する被害を引き起こす。
- 管内で9月22日B系統が疑われる事例を発見したことを受け、調査を実施した結果、31ほ場中18ほ場で発生が確認された。
- 当班は今後、B系統の防除対策を農家や団体に対し行っていく。



関係者で調査について意識統一



ネギハモグリバエ（別系統）被害

## ■高品質ゆずの出荷販売に向け、今後の栽培管理を徹底

- 西予農業指導班は10月14日、JAひがしうわと連携して令和3年産ゆず出荷販売協議会を開催し、ゆず生産者ら68人が出席した。
- 当班からは栽培情勢報告として、8月の長雨やその後の急激な温度上昇が影響し、日焼け果やこはん症などの果皮障害の発生が一部で見られることから、選果には十分留意するよう呼びかけた。
- 今年産のゆずは、樹によって着花量にバラつきはあるものの、生理落果が少なく、最終的な着果量はやや多い見込みで、650t（昨年比101.4%）の出荷量を見込んでいる。
- 当班では、ゆずの連年安定生産と品質向上を目指した技術指導に加え、青ゆずの販路拡大等の支援を行い産地拡大を図る。



栽培情勢について情報提供

## ■トマトオーナー制度の収穫体験 今年も完熟トマトが採れました

- 西予農業指導班が計画・運営を支援する遊子川グリーン・ツーリズム推進委員会は10月17日、トマトオーナー制度の収穫体験を開催し、市内外のオーナー33人が参加した。
- 今年度はコロナ禍で植付け体験や8月、9月の収穫体験は中止したが、10月はコロナ感染防止対策を十分取った上で開催することとし、オーナーを3組に分けて時間差で実施。
- 当日は、参加したオーナーが農家の指導を受け、各自のオーナー株5本から実ったトマトを1つ1つ丁寧に収穫。「コロナ禍で今回の収穫体験も実施できるのか不安だったが、体験できてよかった」との声が多く聞かれた。
- 当班は、引き続き推進委員会と連携しながら、オーナー制度のPRに努めるなど、都市住民との交流を支援していく。



参加者に収穫のポイントを説明



収穫を楽しむオーナー

## 南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■温州みかん・甘平の台湾輸出計画を協議

- 産地戦略推進室は10月11日と12日、ブランド戦略課、JAにしようわ、取組生産者の出席のもと、今年産温州みかん（屋根掛け）及び甘平の台湾輸出に向けた検討会を開催した。
- 計画では、来年の春節は2月1日で、この時期に消費者の購買意欲が高まることから、販売フェアを1月21～23日に開催することとし、これに向けた生産と出荷に取り組むこととなった。現時点での目標輸出量は、今年の温州みかん約1.2t、甘平2.5t以上としている。
- また、輸出の新たな取組として、ブランド戦略課より、せとか（香港）と富士柿（マカオ）について提案があり、JA担当者と連携して、今年から試験的に進めることを申し合わせた。



かんきつ輸出に向けた情報交換

### ■現地デモで青ねぎ用収穫機の実用性を確認

- 産地戦略推進室は10月15日、収穫作業の省力化に向けて導入を検討してきた青ねぎ用収穫機について、加工用青ねぎ生産を担う（株）百姓百品村の現地ほ場で実用性の確認を行った。
- 当日は、開発メーカーより同機の操作やメンテナンス方法を教わるとともに、（株）百姓百品村の現行の栽培様式でも同機による収穫が可能であることを確認した。また、手刈りと比べた場合の省力性については、収穫作業能率\*が約2.7倍となる見込みであり、担当者は同機の導入に意欲を示した。
- 当室では、栽培技術の改善に加え、今後は活用できる補助事業等について検討し、加工用青ねぎの産地化を支援する。



収穫機の動作を確認



機械収穫された青ねぎ

※収穫作業能率（人・h/10a）

手刈り=22.8（10a 当たり4人で5.7時間）。機械収穫=8.4（10a 当たり2人で4.2時間）。

## ■南予の逸品を紹介！八幡浜特産の「富士柿」をPR

- 産地戦略推進室は10月25日、「南予の農産物販売促進事業」で実施している「南予の逸品発掘とPR」において、逸品の一つに選定した八幡浜特産の「富士柿」を紹介するため、同市国木地区で委託事業者の（株）エス・ピー・シーによる取材のサポートとアドバイスをを行った。
- この取組は、商品として魅力があり、特色のある農産物や加工品等をPRするもので、今回の「富士柿」を含む7品目について、メディアによる紹介や商品のブラッシュアップ等を行うことにしている。
- 取材では、JAにしゅうわ富士柿部会の菊池部会長から富士柿の特徴、栽培由来、今年産の生育状況や脱渋方法等の説明を受けた後、レポーターが柿の渋味を体験。当室からは、産地の生産概要等を紹介した。
- 今回の内容は、「タウン情報まつやま」のWebサイトや、SNS、スマホアプリ「えひめのあぷり」等に「南予みらい逸品堂」として掲載されるほか、南予地方局農業振興課のfacebook「南予の農林水産物PRサポートチーム」にも掲載する。



園地で今年産の状況を取材

## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■いちごの育苗期間中の環境条件の違いが生育等に与える影響について調査

- 高度普及推進グループは10月14日、今治市のタオル美術館において環境制御型ハウス内の冷房下で育苗し、育苗期間中に肥効を継続させた苗の生育状況を調査した。
- 花芽分化のため育苗期間の後半で肥効を切る通常の育苗との生育差を調査したところ、肥効を継続した苗は、定植2日後には葉水が確認されるなど定植後の活着が良好で、下位葉の葉色も良く、展開した新葉も展開速度が速く、小葉身長や葉幅も広い結果、葉面積が拡大し、頂果房の開花も速くなった。
- この生育差は、肥効を切った苗では本年8月の連続した降雨、低日照により株が充実しないまま極度に株が消耗し、発根力が十分でないまま活着不良を起こした一方、肥効を継続した苗では株の消耗が少なかったこと等が要因であると考察される。
- 当グループでは、今回得られた結果を基に肥効を継続した育苗技術を検討するとともに、培地内の肥料濃度を簡易に測定しながら給液管理する技術等を確立することとしており、県下のいちご栽培における収量拡大に向け、引き続き現地実証等に取り組む。



肥効を切った苗（手前）は葉色が薄く、葉面積は縮小



肥効を継続した苗は早期に葉面積を確保

## ■新規品目しょうがの産地化に向け、収穫前の調査を実施

- 高度普及推進グループは、しょうがの栽培技術を確立するため、10月8日から愛南町の露地栽培ほ場及び東温市のハウス栽培実証ほの収穫前の生育調査を行った。
- 当グループでは、今年度より大洲市において普及組織先導型革新的技術導入事業を活用し、専用庫で貯蔵した芋を種芋として使用した露地栽培実証を開始するとともに、来年2月からはハウス栽培実証に取り組むことから、参考となる両ほ場の調査を定植期から実施し栽培者等との意見交換を行ってきた。
- 県内で貯蔵用しょうがの先駆者として大規模栽培に取り組んでいる農業者の露地栽培ほ場では、8月の長雨の影響から根茎腐敗病の拡大等が懸念されたものの、多肥を避けた栽培等により良好な生育が確認されるとともに、東温市にて設置したハウス栽培の実証ほでは、点滴かん水による養液栽培により草丈が2.5mになるなど旺盛な生育が確認された。
- 当グループでは、11月より掘取調査を行うとともに、貯蔵試験を行うこととしており、県産しょうがの周年供給体制を構築するため、生産、貯蔵技術の確立を図るとともに、加工や多様な流通ルートの開拓等についても支援し、収益性の高い産地づくりを目指す。



露地栽培者との意見交換（愛南町）



ハウス養液栽培実証ほ（東温市）

## ■大洲のしょうが、産地化に向けて物流と商流を協議

- 高度普及推進グループは10月25日に、普及組織先導型革新的技術導入事業を活用し大洲市でしょうがの産地化を目指す(株)誠実村と、関東の仲卸流通業者を引き合わせ、令和4年産以降の物流と商流に関する協議を行った。
- しょうがは、全国の産地から巨大貯蔵庫を保有する大手流通業者に集荷され、全国の卸売市場等に周年供給されており、産地を拡大していくには、同流通に合流するための商流と物流の確保が必要であることから、今年産から試験的に取引を進めていく予定である。
- 今後、大洲農業指導班と協力し、梱包や出荷調整に関する指導、支援を行うとともに、本流通に関する経営分析等を行い、産地化を目指していく。



物流・商流に関する協議



試し掘りによる品質確認

## ■「紅プリンセス」水田転換栽培園の排水対策の効果を確認

- 高度普及推進グループは10月7日、水田転換園における排水対策指導を行った伊予市の県育成新品種「紅プリンセス」栽培ほ場において排水対策の効果等を調査した。
- 当グループでは、同園が水田転換園特有の粘質土壌と隣接地から地下水が流入していたこと等から、令和2年度普及組織先導型革新的技術導入事業により松山市で実証した根域制限栽培の実証で得た知見等を基に、同園でも排水対策を指導してきたところ。
- 今回の排水システムは、表面排水ができる明渠の設置に加え、植栽列間や横方向にも溝を掘削した上で、目詰まりを防止する加工を施したネトロンパイプを、疎水材となるもみ殻で周囲を充填しながら埋設しており、8月の記録的な長雨時にも園内には停滞水も少なく十分な排水ができた結果、苗木も良好な生育が確保されている。
- 同園では今年度中にハウスが建設される予定で、当グループでは引き続き降雨後の排水状況や苗木の生育を確認しながら、「紅プリンセス」の早期成園化及び高収益栽培の実現に向け支援していく。



明渠・暗渠による徹底した排水対策工事



暗渠の施工状況を確認

## ■「ひめの凜金賞プロジェクト」ほ場において高品質・良食味を確認

- 高度普及推進グループは、全国規模の食味コンクールでの入賞を目指す「ひめの凜金賞プロジェクト」で食味向上技術の実証に取り組んだほ場で収穫した米のタンパク質含量や食味スコア等の測定調査を行った。
- 調査の結果、登熟期間中に間断かん水やかけ流しかん水などの定期的に水を引込む管理を実施した鬼北町、東温市、松山市の各ほ場のタンパク質含有率は6%以下となり、ひめの凜の最上位品質として認められる「プレミアムクオリティ」の基準以上になるほか、食味スコアも80以上となっており、これらのほ場では高温期において長期に湛水したほ場に比べ溶存酸素量が維持され、収穫直前まで根の活性が維持されていたことなどからも、滞水させない水管理の効果等が示唆される結果となった。
- 当グループでは、過去の食味コンクールで入賞したほ場や施肥試験を行った実証区についても品質調査を実施しており、12月に開催する普及指導員調査研究会において「ひめの凜」の品種特性に合った食味向上技術に関する分析結果を報告することとしており、同品種の良食味米としての生産を推進する。



収穫調査



食味調査

## ■若手普及職員が制作した県産さといも、柑橘類のPR動画を試写

- 高度普及推進グループは10月26日に県庁において、関東で27店舗の青果店を経営する(株)ユナイテッドベジーズの山本社長と、若手普及職員を対象とした首都圏流通・販売研修における店舗調査受け入れについて協議を行った。
- 当グループから、受入店舗での調査内容等を説明し、普及指導員が作成中の調査で使用する県産さといも、柑橘類をPRする動画の紹介を行ったところ、「ユニークで面白い」、「首都圏の消費者が知らなかったことも多く興味を引くのではないか」との評価を受け、12月と2月に3店舗の店頭にあ媛コーナーを設置し、PR動画を放映することとなった。
- 今後、当グループは、設置されたあ媛コーナーにおいて、同研修に参加する若手普及職員と、消費者の購買行動や量販店での流通形態等を調査することとしており、完成したPR動画については、県YouTube公式チャンネル「ひめテレッ！」にも掲載し、県産品のPRを行う予定。



若手職員が制作したPR動画（サトイモ編）



PR動画の紹介（県庁）

## 農産園芸課 企画調整グループ

### ■新任普及職員におけるOJT研修の活動状況調査を実施

- 企画調整グループは、新任普及職員（採用後2年未満）の技術の習得や現場における指導力の向上を図るため、OJT研修を実施している。
- 同研修は、新任普及職員に対し、先輩の普及職員がインストラクターとなり現地での指導等をマンツーマンで行うもので、当グループは活動状況を調査し助言等を行っている。
- また、当グループは、採用3年目までの職員に対し、篤農家の技術等を学ぶ農家体験研修を実施しており、今年度からは現地で学んだ技術を自らが撮影、編集し、「リアルタイム農業普及ネットワークシステム」のデータベースにアップすることにより、映像データを技術資料として県下で共有する取組を進めており、今後も同システムを活用するなどして若手職員の指導力向上を支援する。



農業者への指導方法を確認



データベースにアップされた篤農家の作業映像  
(愛南農業指導班登録)

#### ※「リアルタイム農業普及ネットワークシステム」

：生産現場や普及拠点と研究機関等をつ結び現地映像を基に専門家が生育診断等を行うシステム。データベースサーバーには、診断の様子が自動録画されるほか、これまで現地の職員しか見ることが出来なかった県下で撮影された貴重な現地映像等が登録されており、普及職員は、作物や作業、病害虫名などのキーワードで検索して閲覧することができる。

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543